

科目	義肢装具学演習	担当	江西 一成	履修学年	3年
時間数	90分×時限×24回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

義肢・装具は、身体機能障害を受けた対象者へのリハビリテーションに際して、その日常生活の自立を達成するために活用する有力な手段のひとつであり、受講者は、その定義、歴史、目的、原理などを学ぶ。装具や補装具の種類・構造・機能、およびそれらを必要とする疾患や障害、また、義肢の種類・構造・機能、および義肢を必要とする四肢切断の原因、切断術と断端管理などを理解する。さらに、短下肢装具やスプリントの製作、各種補装具の使用などの実体験を通じた学習も行う。これらのことから、補装具の処方と適合判定、義肢の適合・活用などを理解し、適切な理学療法への活用できるようになることを目標とする。

【履修注意】

運動療法とともに、リハビリテーションの重要な治療手段である。解剖学、特に骨・関節、神経、筋の機能・構造、そして中枢神経・末梢神経障害について十分に理解したうえで講義に臨むこと。

【評価方法】

期末試験・出席状況・授業態度・課題レポートなどで総合的に評価する。

【試験について】

講義終了後、期末試験を実施する。

再試験対象者の条件：本試験で40点以上60点未満を対象とする。ただし、40点未満は対象としない。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針です。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要です。

【教科書】

書籍名：装具学(15レクチャーシリーズ理学療法テキスト) 著者：佐竹将宏責任編集 出版社：中山書店
 書籍名：義肢学(15レクチャーシリーズ理学療法テキスト) 著者：永富史子責任編集 出版社：中山書店

【参考書】

特になし

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	オリエンテーション、総論	義肢・装具の歴史、医療やリハビリテーションとの関わり装具療法の定義、歴史、目的、原理、基本的事項、他
2	下肢装具①	下肢装具と歩行能力の関係、短下肢装具の構造、様々な短下肢装具、他
3	下肢装具②	長下肢装具の構造、靴型装具、靴補正、その他
4	体幹装具、補装具など	頸椎・体幹装具、整形外科的治療との関係、車いす、歩行補助具、他
5	下肢装具実習①	ギブス採型：陰性モデルの作製(中部義肢・他)
6	下肢装具実習②	陽性モデルの作製(中部義肢・他)
7	下肢装具実習③	プラスチック短下肢装具仮合せ、トリミング・完成(中部義肢・他)
8	義肢・切断総論	切断と離断、および義肢の定義、歴史、原理、目的、他歩行分析と義足歩行、義足の構造、ソケット種類、膝・足継手、足部など
9	義足の構造	大腿義足、下腿義足、股義足・膝離断義足、足部義足など
10	義足装着理学療法	下肢切断の評価、断端管理、義足の適合・アライメントチェック歩行分析、運動療法、ADL動作への反映・応用など
11	各種補装具の装着・使用体験	形態計測、および下肢装具の装着下での歩行指標計測など
12	期末試験	義肢装具学演習のまとめ
13		
14		
15		
16		